

右や左に見えるもの

Choses Vues a Droite et a Gauche

ニシジマ・アツシ、村井 啓哲

NISHIJIMA Atsushi, MURAI Keitetsu

2022年02月16日(水) - 03月05日(土)

OPEN pm 12-7 水・木・金・土曜(日・月・火曜休廊)

本展のタイトル「右や左に見えるもの」はエリック・サティの楽曲名から採られました。サティとは関係ないと村井啓哲は言います。

『「右や左に見えるもの」という言葉の(エリック・サティとはまったく関係ない)勝手なイメージは、およそ「脇見」であり、目的や目標から排除される要素への関心です。』

エリック・サティ1914年の作品「右や左に見えるもの(眼鏡なしで)」は演奏時間4分ほどのピアノとバイオリンのための楽曲です。この曲は全3曲からなり、それぞれ第1曲「偽善的なコラール」第2曲「暗中模索のフーガ」第3曲「筋肉質なファンタジー」というタイトルがついています。

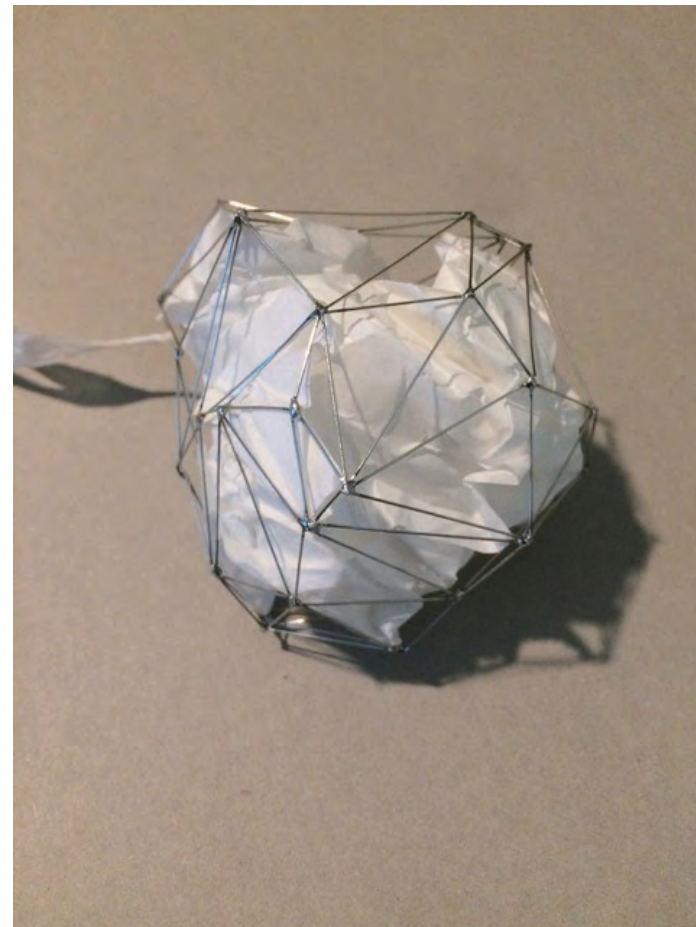
サティが何を思ってこの曲にこんなタイトルをつけたのかわかりませんが、分厚い眼鏡をかけていたサティが眼鏡を外して見たのは、左右も真ん中も曖昧な景色だったでしょう。目的や目標が明確な世界はサティにとっては皮肉の対象だったのかもしれない。

ジョン・ケージ生誕100周年イベント「John Cage Countdown Event 2007-2012」などを手がけたニシジマ・アツシ、村井啓哲によるコラボ展。眼鏡は外してご来場ください。

+1art

| 展示作品 |

ミクストメディア・インスタレーション

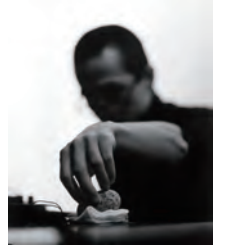


《紙つぶて》 村井 啓哲
Mixed media 2022 60x60x60mm

展覧会名はエリック・サティの楽曲名 Choses Vues a Droite et a Gauche(sans Lunettes)の一部転用。意味はなく、主義も信条もなく、単なる思い付きがそれ自体の展開と限界を示し出す。
(村井啓哲)

村
井
啓
哲

MURAI Keitetsu



1962年 東京生まれ。サウンド・パフォーマー／アーティスト。

主に自作を含む電子回路／機器の反制御的操作によるサウンド・パフォーマンスを行う他、視覚的作品も制作する。またフルクサス参加作家のイベント・インストラクション、ジョン・ケージの非五線記譜法による非器楽曲などの解釈／演奏も行う

展覧会／イベント等の企画者としては、1991年から1993年までP3 art and environmentに於いてサウンド・インスタレーションを紹介する年次企画を担当、また2007年から2012年まで、ニシジマ・アツシと共同でジョン・ケージの生誕100年に向けたコンサートを企画制作し、演奏にも参加した。

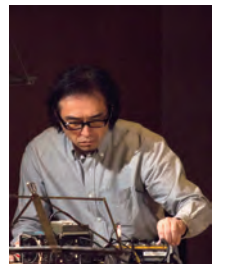
今回の展覧会のタイトル“右や左に見えるもの”は、村井さんと私との対話の中で話題になったErik Satie_Choses Vues a Droite et a Gauche (sans Lunettes)から、村井さんが発想されたのです。

私たちにとって興味深かったことは、作曲された音楽よりも、この曲のタイトルの日本語訳でした。『右や左に見えるもの～眼鏡無しで』『右と左に見えるもの～眼鏡無しで』インターネットで検索すると、この2つの日本語訳が出てきます。「～や～」「～と～」どちらが正しい訳かは、私たちには分かりかねますが、「～や～」「～と～」それぞれに違った場所性や空間性を感じます。

今回の展示では“右や左に見えるもの”以外の何かが発現すればと考えています。
(ニシジマ・アツシ)

ニ
シ
ジ
マ
・
ア
ツ
シ

NISHIJIMA Atsushi



1965年 京都市生まれ。大阪芸術大学 音楽学科 音楽工学専攻 卒業

80年代後半より実験音楽の制作、ライブ・エレクトロニック・ミュージックによる演奏を始める。その後、音を持つ様々な側面と日常の事物をユーモラスに同定して発想したヴィジュアル作品の制作も始める。2001年Asian Cultural Councilの助成によりニューヨークに滞在し、Location Oneにて個展、そしてライブ演奏を行っている。2014年には文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに滞在し、作品制作・演奏を行うなど、現在も国内外を問わず精力的に活動をしている。